

浦城ク 堅守からV

ハンドボール

全国小学生大会

ハンドボール女子の浦城小クラブが6日、京都府であった全国小学生大会で2年ぶり3度目の頂点をつかんだ。

(1面参照)

浦城小は準決勝で地元・京都代表の桃園HBCに17-10で快勝。東久留米HBC(東京)との決勝は、両チームの守備が機能してロースコアの展開になりながらも優位に進めた。1点差に詰め寄られる場面もあったが、終盤の又吉虹歌主将の2連続得点などで13-11で振り切った。

▽女子準決勝

浦城小 17(7)4(10) C 桃園HBC (京都)

▽同決勝

浦城小 13(7)5(11) HBC 東久留米 (東京)

多彩な攻め 接戦制す



女子の浦城が息詰まる接戦を制し、2年ぶり3度目の頂点をつかんだ。

4年生で日本一を経験した現6年生が、「先輩に続く」と高い目標を掲げて後輩をけん引した。堅守から多彩な攻撃を展開し、東久留米HBC(東京)を13-11で振り切った。東久留米は攻撃にスピードがあり「気の抜けない相手」(栗國茂則監督)。ゴール周辺を手厚く守る「4-2」システムで、マークがずれて

ハイライト

も別の選手が対応して失点を抑え奪って3点差に広げ、勝利を決定付けた。

守備が安定すると攻撃も機能する。又吉叶が右サイドから飛び込んでシュートを決め、左サイドの野底桃加も中央に切り込んでゴール。パスカットからの速攻と多彩な攻撃がさえた。後半は9分ライン付近からミドルシュートを決めるなど、前半とは違う攻めも加えて翻弄(ほんろう)。残り3分で又吉虹歌主将がゴールを

7分スローを2度止めたGR仲西涼夏は「2年前は先輩たちの力で優勝できた。今度は自分たちの力で頂点に立ててうれしい」と涙。栗國監督は「昨年準Vのコサジュニアに続く好成績を残すことができ嬉しかった。日本一のチームとして、とりこぼしがないよう全部勝つ」と、選手にさらなる奮起を促した。

女子決勝 浦城小ク
ラフー東久留米HBC
C シュートを打つ
浦城の根間美純寿
京都府・田辺中央体
育館(スポーツイベ
ント提供)